

議会 だより



小豆島町

No. 32

平成26年 5 月 1 日 発行



それぞれの決意を胸に

4月13日の選挙で町民からの付託を受けた14名の新議員

- 審 議 議 案
平成26年度予算について…………… 2
- 一 般 質 問
12名の議員が質問 …………… 6～11
- 小学生議会開催 …………… 12・13
- 住民の声・まちの力 …………… 14

「希望の島」に

26年度当初予算

合併後
最大規模

94億8900万円を可決



子育て・人づくり

2億2,369万5千円

子育て応援の充実 1億7,932万5千円

- 中学生までの通院にかかる医療費の無料化 913万3千円
- すくすく子育て応援アクションプランの策定 129万3千円
- 中学校統合に伴い臨時講師を増やし、
カウンセラーを配置 336万1千円

産業づくり

1億6,072万7千円

地場産業の強化 7,612万円

- 離島活性化交付金を活用した、
地場産品航路輸送料の補助 5,000万円
- 農林水産業の振興 3,834万1千円
- 有害鳥獣対策の強化 2,885万6千円

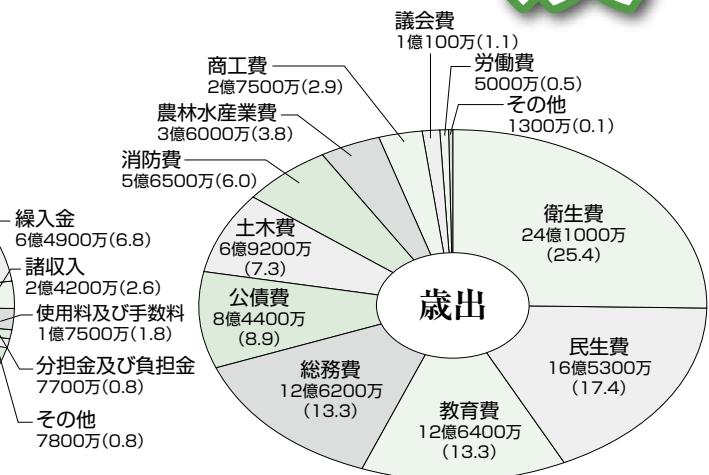
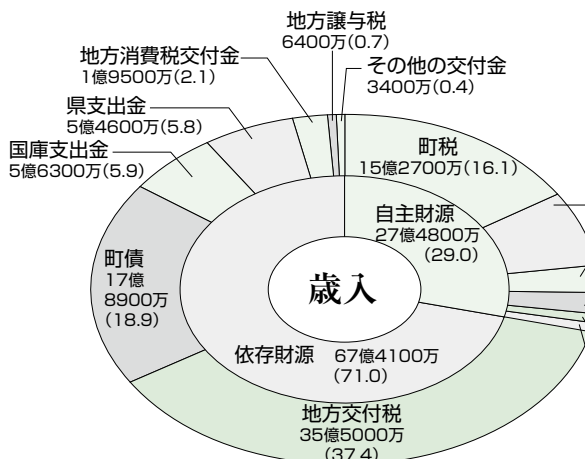


文化・アート総合戦略

1億2,112万8千円

アート小豆島夏・秋の展開 8,924万6千円

- 小豆島文化・アート総合戦略事業 1,108万円
- 小豆島アートデザインプロジェクト 1,497万9千円
- 映画・演劇のまちづくり 500万円
- 四国学院大学との連携による演劇文化の振興 200万円



(カッコ内は%、百万円未満は四捨五入)

小豆島を日本と世界の

3月定例会は、2月27日から3月17日まで19日間の会期で開かれました。

初日に、町長の26年度施政方針の演説があり、小豆島が持つ素晴らしい魅力と可能性に磨きをかけ、新しいかたちにして、小豆島を日本と世界の「希望の島」とする取り組みを実践していくことを表明しました。

一般質問には、12人の議員が登壇し、防災・産業・教育・福祉など、多方面にわたって論戦を展開しました。

また、条例改正や補正予算などを審議し、原案のとおり可決しました。

26年度一般会計、特別会計など合わせて11会計については、総務建設常任委員会、教育民生常任委員会にそれぞれ付託し、集中審査を行い、すべての予算を原案のとおり可決しました。

健康づくり

10億5,161万7千円

地域医療の確保 9億8,080万1千円

- 医療費を減らすための取り組み 1,576万円
- 保健医療福祉職志望者に対する修学資金貸付 3,000万円
- 新病院整備費を含む医療組合負担金 7億7,392万5千円



交通・通信の充実

8,735万1千円

瀬戸内海の復権 5,048万4千円

- 坂手港整備事業 4,330万円

陸上交通の確保 2,746万4千円

- オーリーブス改革事業 1,020万円

防災対策

3億5,757万2千円

防災施設等の強化・充実 2億2,829万2千円

- 中山分団消防屯所の整備 2,369万円
- 坂手分団ポンプ車の更新 2,050万円
- 小豆消防署整備（西・東署）1億7,121万2千円



議案審議

補正予算

一般会計
(第5号、第6号)

会期中に2つの補正予算が提案され、補正後の予算総額は88億8,051万8千円となりました。

第5号補正は、消費税増税に配慮した低所得者や子育て世帯への給付金支給事業や植松都市下水路再整備事業の補助金が追加配分されたことに伴う補正です。

第6号補正は、消費税増税に伴う景気の腰折れを防ぐため、公共事業の前倒しなどを、4月以降に繰り越して実施するための予算手続きのほか、予算の補正はその殆どが事業費精算による減額が主なものです。
主なものは次のとおりです。

総務費関係

内海病院及び

老健うちのみ跡地利用

調査業務委託料

154万1千円

老健うちのみを庁舎として利用できるか調査するための委託料です。

民生費関係

臨時福祉給付金

4,800万円

消費税増税に伴う低所得者対策として、国から支出されるものです。

子育て世帯臨時

特例給付金

1,600万円

消費税増税に伴う子育て世帯への給付として、国から支出されるものです。

商工費関係

「醬の郷」景観整備

モデル事業補助金

118万1千円

馬木地区にある建物の壁の一部を変え、「醬の郷」として相応しいデザイン整備を行うものです。



土木費関係

植松都市下水路

再整備工事

8,500万円

国から補助金の追加配分があったものです。

条例制定

消費税率及び地方消費税税率改定に伴う関係条例の整備に関する条例

4月からの消費税引き上げに伴い、町管理の公共施設の使用料を改定するものです。

Q 使用料・利用料の実績からすると町民の負担はどのくらいになるのか。

A 300万円ほどが住民に負担いただく金額となる。

防災拠点施設再生可能エネルギー基金条例

太陽光発電で得た売電益を適切に管理し、施設の維持管理や更新にかかる費用に充てるために基金をつくるものです。



Q 売電益はどのくらいを見込んでいますか。また今後の整備予定は。

A 売電を目的としているものではない。あくまで自家消費、災害時の発電を想定している。売電益であるが年間500キロワット、約8万円出ると考えている。あと、施設整備については町内で10カ所を予定している。

小豆島サイクリングターミナル整備基金条例を廃止する条例

既に条例、規則を廃止しており、本来の運用資金は必要でないことから、この基金条例を廃止するものです。

地域包括支援センターの人員及び運営等に関する基準を定める条例
従来、厚生省令で定められていたものが、町の条例で定めることとなったものです。

条例の一部改正

副町長定数条例

求められる政策の範囲が広がってきている最近の町の状況から、新たな施策の実施に際し、政策分野を分担した複数の副町長体制を置くための改正です。

Q 副町長が2名必要なる理由は。

A 町をまたぐ形での統合病院建設は、他にも事例がない非常に大変な仕事である。その他町が抱える政策課題には早急に対応しなければならぬものも多い。国や民間のトップとの交渉の機会も多くあり、そういった事情に対応するために副町長を2名置きたい。

奨学資金貸付条例

従来、町内に住む生徒であることが貸付条件のひとつでしたが、在校時優秀な成績を残し、学校長の推薦があ

れば、他市町の生徒であつても奨学金貸付ができるようにするものです。

Q 借りられる人数の枠はあるのか。土庄町以外の市町の生徒でも対象になるのか。

A 所得制限はあるが人数枠は設けていない。他市町の生徒でも対象になる。

体育施設条例

旧池田中学校体育館を社会体育施設とし、三都町民プール、中山町民プールを削除したものです。

簡易水道事業の設置及び給水に関する条例

福田浜簡易水道を福田簡易水道に編入することに伴う改正と、消費税率引き上げに伴う使用料等の改正です。

町議会委員会条例

議員定数が16名から14名になることに伴

い、委員会の定数も減らすものです。

その他の一部改正条例

・社会教育委員

・設置条例

・新しい

産業づくり条例

その他の審議事項

障害者グループホームの指定管理者の指定

二面に建設中の障害者グループホームの運営を、社会福祉法人ひまわり福祉会に行わせるため、指定管理者として指定するものです。



二面に完成した障害者用グループホーム

請 願

紹介議員

村 上 久美議員

鍋谷真由美議員

消費税増税の中止を求める意見書の提出について

提出者

小豆島民主商工会

会長 小西隆博

予算委員会審議

それぞれ委員会で審議された内容の一部と、出された意見をお知らせします。

総務課

Q 自治消防団で整備している機器が劣化してきている。対応はできないのか。

A 平成26年度からは香川県の支援事業も立ち上がってきたので、そこで対応していきたい。

【意見】

自主防災について、地元自治会の意見を十分把握し、情報提供、施設の点検、整備に努められたい。

紹介議員

村 上 久美議員

鍋谷真由美議員

消費増税の中止を求める意見書の提出について

提出者

小豆島民主商工会

会長 小西隆博

予算委員会審議

それぞれ委員会で審議された内容の一部と、出された意見をお知らせします。

農林水産課

Q 町内あらゆるところでイノシシ被害が発生している。食肉加工等、新たな有効な手立てはないのか。

A 捕獲した野生鳥獣の利用については、なかなか生産ベースに乗るものではない。国内でも、そういった事業を行っている会社はほとんどが赤字経営である。

【意見】

鳥獣害対策については、地域にも協力を求める取り組みを行うなど、より積極的に実施されたい。

子育て共育課

Q 内海地区の幼稚園を統合するといった話が

出ていたが、どうなったのか。

A 保護者の意見を受け、計画を変更した。

現在の予定では苗羽幼稚園と内海保育所の統合を目指している。

【意見】

内海地区の幼保再編については、将来を見越した再編計画となるよう慎重に進められた

い。なお、進捗状況等について都度、議会に報告されたい。

高齢者福祉課

Q 介護予防支援ボランティアの人数や目標

は、どうやって組織していくのか。

A オリーブ健康塾でボランティアを養成しようとしているが、ボランティア活動者が少ない地区を重点に置いて、健康塾への参加を呼び掛けていきたい。

【意見】

介護ボランティアについて、地域格差が生じないような取り組みを進められたい。

全国香川県町村議会議長会表彰

長年、議員として地域発展に尽力した功績が讃えられ、安井議員が全国から、新名・森議員が県から表彰を受けました。



安井信之 議員



森 崇 議員



新名教男 議員

一般質問



谷 康男 議員

少子高齢化対策として

Uターン希望者に対する積極的な施策を

町「高校を卒業した者の半数が帰ってこられるようにしたい」

質問 施政方針にもあるように、現在、小豆島の最大の課題は人口減少と少子高齢化である。

人口減少対策の本質は、小豆島で生まれ育った人たちが地元に戻ってくるのではないか。

答弁 人口の自然減はどうすることもできないが、社会減というのは、政策によって減少を抑えることはできると考える。高校を卒業した人の半数は小豆島に帰ってこられるような政策をしていく必要があると考える。



現役大学生から小学生に指導

幼保、小中高一環教育に関する保護者の理解について

町「教育方針の説明を行う」

質問 幼保、小中高の一環教育を遂行していくうえで、家庭や地域との連携と協力が不可欠である。

この教育方針を保護者や地域住民に理解してもらうための講演や教室の開催を。

答弁 近年、地域の教育力の低下が叫ばれている中、教育委員会としては、教育の充実を図るためには、地域や保護者の理解と協力が不可欠と考えている。平成26年度には、保育所や幼稚園から高校において、保護者が集ま

る機会を捉えて、教育方針の説明を行う。また、家庭教育を専門にする大学教授などの有識者を招いて、保護者や地域住民を対象とした講演会や家庭教育学級の実施も検討している。

高齢者に半額バス運賃を

町「パスポートが利用しやすくなる施策を検討する」



村上 久美 議員

質問 「バス運賃が高い、バス停までが遠く利用できない」等の声にこたえるために高齢者にバス運賃の半額バス発行を。デマンドバス・タクシーの導入に積極的だが、早急に明確な方向性は。

答弁 高齢者のバス運賃半額バスは、公共交通でのバスを利用しやすい施策として検討したい。事務方に早急に出すよう指示は出

している。

住宅リフォーム

助成制度を

町「検討に値するすこし時間を」

質問 住宅リフォーム助成制度は、昨年5月で562自治体で実施しており、この3年間で3倍強の伸びで実施している。香川県はさぬき市がすでに実施しており、2014年度から三豊市で実施が決定している。空き家改修等の補助事業だけでは地域経済の波及効果を上げるには全く不十分ではないか。10倍、20倍の経済波及効果を上げるといわれる住宅リフォーム助成制度の導入を。

答弁 住宅リフォーム助成制度の導入は検討に値する政策だ。財源の優先順位など検討すべきことは多いが、少し時間をいただきたい。

子どもが満足

できる給食を

町「分量、配送時間を検討する」

質問 学校給食は教育として位置付けられ、栄養バランスを計算し、寒い冬は温かく、暑い夏は冷たく、おいしい給食を提供することが大事。給食センターが統合されて、池田小・中学校は給食の分量が減り、冷たい給食を食べていると聞くと、給食の分量増の調整や容器の変更、配送時間の検討が必要ではないか。

答弁 給食の分量の改善や配送時間は検討する。容器は二重構造で温度の低下は少ない。



学んで、食べて伸びる力

質問 どこをモデル地区に指定し、抜本的な対策に着手するのか。
また、田畑の石垣を崩される被害が数多くあり、耕作放棄地対策との関連もあると思うが対策は。

総合的な有害鳥獣対策とは

町「自衛体制が整った地区をモデル地区とし、対策を考える」



森口 久士 議員



イノシシにより崩された石垣

答弁 モデル地区は、地域が一体となり有害鳥獣に対する勉強会、対応策の検討会、共通の認識を持つ。
緩衝帯とか防護柵の設置をし、その施設の管理見回り、追い払い等の自衛体制が整った集落・自治会を想定している。
国・県の予算枠で対応が不十分であれば町単独の予算を投入し、必要な対策がきちんと取れるように考えている。
石垣の件は検討する。

航路の振興は

町「陸上交通との差を埋める視点で、国・県に働きかける」

質問 航路を守るための国の支援について具体策をつくり、国と県に理解と協力を求めていく。神戸と坂手を結ぶ航路も大切だが、船賃・航送料が高い生活航路であり、観光客にも影響がある高松と小豆島を結ぶ航路にも何かの対応をすべきでは。

答弁 陸上は国費・県費で道路が整備され、その分利用者の負担が軽減されているが、海の航路にはない。
陸上交通と海上交通の利用者負担の格差を埋めるという視点から、国・香川県の支援策を講じることができののではないかとこの観点で議論している。
高松・小豆島航路も含めて、提案しようと思う。



安井 信之 議員

質問 救急艇を利用するに当たり、救急車は国道より民有地を通っている。
早急な検討が必要では。

答弁 池田港浮き桟橋の救急車両進入のことについては、ご指摘のとおりである。早急に改善をしたいと考えている。速やかに具体的な計画を策定し、土地の所有者の方に用地協力を求めていきたい。
航路の充実については、坂手と神戸の航路のみならず、池田港から高松との航路もとても重要だと思う。
これについては、国と県が新しい政策を作って頂くということになるので、来年度は

池田港のこれからの展望は

町「浮き桟橋への進入路の問題等 具体的な計画を立てていきたい」

強力に国と県に新しい政策を提案し、実行するように求めている。
民有地の部分を協力していただける範囲で、緊急車両等がそこに停車しても、横を普通車の通行が何とかできるような形を最低限考えている。
国道からの進入についても、水路敷きの部分の上部をあと少し広げたら、その部分から入れる可能性があるので、考えていきたい。



民有地を通る国道から池田港浮き桟橋への経路



柴田 初子 議員

防災対策について

町「防災活動の担い手確保を進める」

質問 地域防災力の強化の課題の一つに、消防団の重要性が問われている。昨年11月消防団支援法が成立し施行され、団員の処遇改善、装備品、訓練の充実に向け予算が確保された。町の消防団員の人数確保の状況は。

また、町防災会議の女性委員が1名から7名に増員になったが、その後の活動状況と委員会の開催の有無は。

答弁 消防団員は現在354名が所属している。(規定で360名以内)必要な人員は確保しているが、各団とも退団者の補充に苦慮している。地域防災対策の確立は喫緊の課題なので防災活動の担い

手確保を積極的に進める。また、女性委員のみの会議は開催していないが女性の視点が必

要な課題はたくさんある。適時ご意見を頂いていきたい。

有害鳥獣対策について

町「地域一体となった対策が重要」

質問 近年、特にイノシシ、鹿の被害が多発し、個人での防護に限界がきている。行政と住民が一体となって取り組むために職員を増やす考えは。また、今後の取り組みは。

地域で出来る里山との境界づくり、進入防止柵の設置など地域が一体となって、野生鳥獣が出没しにくい環境づくりが最善だと考えている。



地域一体となった対策が重要

人口を減少させない 究極の方策は

町「子育て支援の政策を地道に進める」



浜口 勇 議員

質問 子育てに小豆島を最適な環境にすることが人口減少をくい止める方策ではないか。そのためには安心して働ける職場が必要であり、経済的にも子育てができる島づくりを目指しては。

答弁 子どものころに「小豆島は素晴らしいふるさと」であることを自然のうちに体得しておくこと。島外で勉強した専門知識を生かせる職場が必要であり、その上に、子育ての環境もよく、住むにはとても素晴らしい島を目指して地道に施策を進めたい。

「子育て支援」では第3子から幼稚園、保育所を無料とし、内海病院病児病後児の利用を無料とする。入院費と通院費を無料にする。緊急時の一時預かり事業など「日本一の子育ての島」を目指す。職場については安定した給料が確実にもらえる企業であるために地域振興と経営改善のアドバイザーに参画してもらい、企業の一層の経営健全化を目指す。起業家支援として福祉、介護事業にも助成金を交付する。



住んでよし、育ててよしのまちづくり

質問 人命と健康を守るため、医療体制を確実にすること。小豆島発展の基礎はここにかかっている。医師や看護師確保とその体制づくりの経過と前回取り組んだパンフレットの作製や住民説明会をする必要性があると思うが。

新病院建設について

町「病院建設の進捗状況をお知らせしていく」



中江 正 議員



小豆島中央病院の完成予想図

答弁 今の2つの病院のままであれば医師確保がいずれ難しくなってしまう。立ち行かなくなる危機感のもとに、新病院で理念を立て、医療水準の高い医療スタッフや住民にとって魅力ある病院をつくることで初めて医師の確保が可能になることという思いで取り組んでいる。

医師、看護師確保の体制づくりは、香川大学、岡山大学、自治医科大学、香川県の医師会・看護師会などにおいてお願いをしているところである。また佐藤医療管理者と医療組合事務局からも新年度に入って両病院のスタッフ全員を対象に、継続勤務などについて文書で意向調査を行い、その結果をもとにして、26年度から新病院の体制づくりや運営計画などの作成に入る。

広報、周知関係は新病院建設の進捗状況を、医療組合のホームページで随時公表している。パンフレット作製や住民説明会など、必要に応じて実施していきたい。

質問 子ども子育て支援新制度は、子どもの保育に格差を持ち込むもので問題だ。「一つの幼稚園に保育所を併設し認定こども園に」とは。これまで通り、保育所で町民の保育を受ける権利を守り、現行制度の保育水準、基準からの後退をしないよう求めるがどうか。

保育所で安心の保育を町「基準を順守し、教育・保育サービスを提供していきたい」

答弁 内海保育所と苗羽幼稚園とをあわせて新築し、認定こども園とする。

基準を遵守しながら、教育・保育サービスをしっかりと提供していきたい。

質問 内海病院の医師が辞めている実態と今後の見通しは。

答弁 4月から内科の常勤医師は現在の5人から3人になり、現時点では後任の医師確保の見通しはなく、入院患者の受け入れに影響が出る。今の2病院のままであれば医師の確保はできなくなる、新病院以外に答えはない。



鍋谷真由美 議員

町民の不安にこたえる病院を町「新病院をつくり医師の確保を図る」



深刻な医師不足

公共工事の安全対策指導の強化を町「適正な指導監督を行っている」

質問 町発注工事での、業者への安全対策指導についての考え方は。

答弁 公共工事の安全対策は、各種の法律などでガイドラインが定められ統一的に運用され、町も適正な指導、監督を行う。



大川 新也 議員

土庄町との合併問題は

町「次期信任が得られれば
次の4年間で考えたい」

合併についての町長の考えは。

答弁 医療・公共交通・

航路・観光等、全て小豆島単位で考えなければ答えが出せないテーマである。1つの行政単位にすることは避けて通れない。この4年間は町を元気づける方向に全エネルギーを傾注した。合併問題まで余裕がなかった。4月選挙で「続投せよ」との支持を得れば、次の4年間の内に考えを整理し、行動を起こしたい。

内海地区幼稚園の集約は

町「幼稚園は存続させる方向」

質問 昨年、平成28年

を目途に内海地区の幼保を1か所に集約したいと聞いたが、所信要旨には既存の幼稚園は残し、苗羽幼稚園のみ保育所を併設、認定こども園にするとのこと

だ。議会には何の説明もないのは議会軽視と思うが、考えは。

答弁 昨年より就学前

教育検討会で保護者に説明、議論を重ねた結果、幼稚園は園児が生まれた地域と関わりを持ちながら成長し、地域を愛する心を育てていくことが大切と考えられ、存続したいとの結論となった。議会への説明不足は大変申し訳なく、お詫びしたい。今後、保護者への周知も早急にしたいと考えている。



手狭となった内海保育所



植松勝太郎 議員

質問 新しい高校の方針と小豆島高校の跡地利用は。

答弁 勉強・スポーツ・文化の面で、島外の子

離島活性化交付金の活用や

新しい産業づくりとは

町「企業の経営安定化を目指す。

色々な方々の取り組みを支援する」

質問 離島活性化交付金の活用で一定要件を満たす事業者に出荷時の航路運賃を助成するとは具体的には。

移住者パワーを活用して新しい産業づくりとは。

答弁 離島であるがゆえに負担を強いられたものの一部について支援をし、企業の経営安定を目指す。またア

小豆島高校の跡地利用は

町「新しい副町長に

特命事項として取り組ませる」

供たちが入学したくなる様な特色を持った高校にしたい。跡地利用は新しい副町長に特命事項として取り組んでもらう。

町「関係者と

協議を始めたい」

池田港トイレ横の遊休地の利用は考えているか

質問 池田港トイレ横の遊休地は8年間綱が張られ、草が生え利用されないままだが、契約が実行されることが無くなったのでは。多くの人たちが来られ島内での足の確保が問題だ。港にレンタサイクルやレンタカーが有れば便利だ。また、障害者の乗降場や駐車場にすれば良いと思うが。

答弁 池田フェリー(有)に土地使用許可が与えられており、継続して使用を許可している。有効活用が必要だと思うので関係者と協議を始めた。



移住者の技術を活かす

質問 小豆島は昨年離島振興法に指定された。人口減少の中、離島は排他的経済水域効果もあり、世界で6番目の広さだ。
漁場確保も島があるからだ。観光にも期待できるし人の往来・物資の流通などもあり、この法律を使わない手はないが。

離島振興法の活用について

町「人口減少を克服するモデルとなる島づくりを目指す」



森 崇 議員

答弁 人口減少を克服するモデルとなる島づくりをしたい。離島活性化交付金は①産業の活性化②情報発信・交流促進③防災講演など安全向上のメニューである。離島に指定されたことはプラスである。

高潮対策の進捗度と自主防災組織について
町「高潮工事の進捗率は87%
自主防災組織は100%の組織率である」

質問 草壁港の高潮対策が進んでいる。ここからの潮が三軒屋まで流れ込んだ。

10年前、高潮対策で1,000枚の写真を撮り、町に要請したが進捗率は。

3月11日は東日本大震災と大津波があった日である。原発で家に帰れない地区もある。避難訓練を続けていた地域は人の命が守られた。自主防災こそ大切だが「町からの呼びかけ」が基本では。

質問 草壁港の高潮対策が進んでいる。ここからの潮が三軒屋まで流れ込んだ。



高潮対策が進む草壁港



藤本 傳夫 議員

「小豆島ヴィラ」倒産の影響は
町「住んでおられる方に
情報提供を行っている」

質問 小豆島ヴィラは、もともと別荘地である。今、小豆島町が移住運動をする前から、小豆島にやってきて住んでくれた人たちがいる。その住民が、ヴィラの運営が悪くなり、不便、不都合を受けている。現在どのような状況なのか。町はどのような対応をしているのか。

極力、小豆島に住んでいただくよう対応しては。

答弁 小豆島ヴィラの管理運営を行う高松観光開発株式会社は、昨年11月に破産手続が開始され、現在破産管財人による資産整理中である。小豆島ヴィラ内の上下水道施設は廃止



立派な建物が残る小豆島ヴィラ

されている。町水道事業の給水区域からは外れており、山上のため、水道供給は技術的にもできない状況である。三世帯各々が家に2トンのタンクを据え、内海浄水場に毎日取りに来ている状態である。ゴミの収集は11月より定期収集を行っている。下水処理については、合併処理浄化槽の設置を提案して対応したい。

質問 ヴィラの資産、利用価値が低くなったため、固定資産税の滞納が増えはしないか。

答弁 家を持っていれば固定資産税はかかる。滞納が増えないよう対応したい。

小豆島町 小学生 議 会



「町長・教育長に質問！」
2月4日、安田小学校の児童15人による、小学生議会が開かれ、率直な子ども視点からみた、町政に対する質問を行いました。（質問は一部抜粋）

きれいな星空を生かし、季節に関係なく島に行きたいなと思える新しい観光施設を作れませんか。



はると 河原 脩都 議員

答 いいアイデアだと思います。そのような施設を作ること考え、以前からある事業についても手助けをしていきたいと思います。

島に橋を造る予定はありませんか。



らいむ 炭野 来夢 議員

答 例えお金があっても、橋を造ることはありません。島が島でなくなることの悪影響の方が大きいと思います。まずは、朝の船便を増やすことなどを議論することの方が大事だと思います。

横断歩道や押しボタン信号の増設はできませんか。



たもん 藤 多間 議員

答 要望があれば警察や自治会と相談し、なるべく早く設置されるよう努力していきます。

深夜にも公共の船舶を運行できませんか。



ふうか 出丸 楓花 議員

答 定期航路として運行するのは、採算が取れず無理かと思います。海上タクシーや救急艇を活用することになりますが、救急に関しては島内の病院で対応できる体制づくりが大切だと思います。

バス便を増やし運賃を安くできませんか。



あさひ 町上 麻雛 議員

答 まずはバスの利用者を増やしていくことが大事です。町ではカードで運賃を簡単に支払えるようにしたり、イベントでバスを使う際には補助金を出したりして、利用者を増やすようにしています。

体の不自由な人が、安全に移動できる交通手段はありますか。また新しい病院には、車が運転できない人も通院できる工夫がありますか。



ゆうや 丸岩 優也 議員

答 まず体の不自由な人に対する町の対応は非常に遅れています。そこで3月から調査し、いろいろな課題を見つけ、急ぐ所から順番に直していきます。新しい病院への通院が困難な方には、ベッドに寝たまま乗れる車で自宅と病院を送り迎えするサービスなどもあります。

若い人たちが帰ってこられるよう魅力的な職場を作る取り組みは。

答 情報化の時代となり、島にいてもインターネット等を利用し都会と情報のやり取りはできるようになりました。まずは色々な職場のレベルを上げ、プラスの相乗効果で、若者の働き場を作っていきたいと思っています。



しおね 山田 汐音 議員

旧内海町で行っていた「連合運動会」は復活しないのでしょうか。

答 開催場所の問題等で運動会の復活は難しいです。別の形で他校の皆さんと交流できる機会を作っていきたいと思っています。



ふうか 山本 楓佳 議員

災害時の町の対策は。
被害を抑えるための対策は。

答 町では人口1%の3日分程度の食料を蓄えています。

また被害を極力少なくするため、住民の方に正確な情報を、的確な形で伝えていくことに取り組んでいます。



まなか
長谷川真可 議員

小豆島の自然を
守るための取り組みは。

答 島の美しい自然が守られているのは、誰かが手入れしていることを忘れないでください。

住民一人ひとりの地道な活動を守っていくことで、島の自然を守っていききたいと思います。



ゆか
藪脇 由佳 議員

雨でも運動できる
屋内運動場ができませんか。



みしお
濱口 実潮 議員

答 町内には5つの体育館があり、皆さんが通っている小学校の体育館でも、保護者の方などがいれば、授業が終わってから使うことができます。

雨降りや外で遊べないときは、部屋で静かに本を読んだり、音楽を聴いたりするようなことを楽しむことを考えるのも一つの方法だと思います。

新病院は今よりも
診療科が増えますか。



はすみ
佐伯 春澄 議員

答 今度の新病院は内海病院に比べて、診療科は増えます。

また急に体調が悪くなっても、現在の内海病院でも診てもらえますし、病院から高松などの専門の病院へ送って治療することもできます。

若い人に子どもを産んでもらえるために
何か工夫をしていますか。

答 町では3番目以降に生まれた子どもにかかる保育料や急な発熱で通園できない場合に内海病院で預かってもらうサービスも無料にして、働く両親の負担を軽くする事業をしています。また、大学へ行く際のお金の負担を少しでも軽くするため、お金の貸付をする制度も行っています。



かずや
速見 一也 議員

障害があることで、
一般企業に就職できないことに
つながっていませんか。

答 働く場の確保以前に、障害のある方が町で安心して暮らせない現実があります。まずはその解消を目指します。働く場については、町内にあまりありませんが、障害のある方も雇ってもらえるよう関係者と話し合っていこうと思います。



みずき
岡本 瑞稀 議員

障害を持つ家庭の世話する方が、急な用事で
世話できない場合、すぐに受け入れる体制は
とれているのでしょうか。

答 町ではまず障害を持つ家庭の日常的な支援体制ができていないので、その整備を行い、普通に生活が出来る環境を整えていきたいと考えています。



あつや
炭山 敦哉 議員



安田小学校6年生議員と傍聴に来ていた児童の皆さん



「高齢者と共に 地区活性化を」

本 田 卓

(坂手自治会 前会長)



世帯数267世帯、人口585名、中学生以下人口36名、65歳以上の高齢者252名、小豆島町坂手の現状です。



坂手小学校が苗羽小学校に、平成16年には坂手幼稚園が苗羽幼稚園に統合となり、地区より昼間子ども達の声が消え、暗くなる一方であったところへ一筋の光が射したのが16年振りのフェリー就航であり、瀬戸内国際芸術祭2013でした。

このチャンスを活用し、引きこもりがちであり、な

かなか心を開いてくれない高齢者と共に、地区活性化へ行動を起こすことができればと思い、集会ごとに元気で長生きするには「好奇心が旺盛」であり、「社交的」そして「意志が強い」を持ち続けければ、若さが保障されると話してきました。

瀬戸芸に積極的に参加し、理解できない現代アートを見て、島外からの見物者と、挨拶を交わせば、立派な交流ができると。声をかけてきた結果、自己満足かもわかりませんが、変化の兆しが見えてきたように思われます。

次の瀬戸芸までには、坂手の元気づくりを進め、地区活性化の中心に、高齢者と共に、行動したく思っています。

内海サッカー少年団は、小学校2年生から6年生までの33名が加入して内海総合運動公園グラウンドを本拠地として高学年週3回、低学年週2回、グループに分かれて学年に応じた練習をしています。

現在の団員数は、小学校2年生から6年生までの33名が加入して内海総合運動公園グラウンドを本拠地として高学年週3回、低学年週2回、グループに分かれて学年に応じた練習をしています。

また失敗を後悔せずに反省して、次に活かせるようにし、成功は褒め、自分の力だけを過信せず仲間の力を信じてフォローする。チームワークを大切にすると熱心なコーチの指導の下、練習に励んでいます。

しかし、年々子ども達の数が減り、去年残念ながら1年生の入団がありませんでした。



1人でも多く子ども達にサッカーの楽しさを知ってもらい、一緒にボールを蹴り、校区外のたくさんの友達と一緒に活動してほしいと思っています。

僕たち、私たちと一緒にサッカーを楽しみたいと思っている子ども達、一度内海総合運動公園グラウンドまで遊びに来てくださ

連絡先
保護者会 会長…三山日登美
090-3785-8521

編集後記

坂手・神戸間ジャンプフェリーの復活。新内海ダムの完成。第二回瀬戸内国際芸術祭の大成功。統合による小豆島中学校の開設。病院の再編問題等々、今、小豆島町は大きく変化を遂げようとしています。

全町民が力を合わせ安心・安全な小豆島町を目指してまいります。

広報委員として、毎号読者の方々にご理解して頂けるよう努めてまいり最後の編集後記となりました。今後も引き続き「議会だより」をご愛顧頂きますよう、よろしくお願い致します。



本紙に対する
お問い合わせは

■発行 小豆島町議会 ■編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4388 香川県小豆郡小豆島町池田2100-4 TEL (0879) 75-1100 FAX (0879) 75-0108
E-mail olive-gikai@town.shodoshima.lg.jp

議会だより 平成26年5月1日 14